

普及活動検討会実施報告書

(仙台) 農業改良普及センター
実施月日：令和元年9月2日(月)
実施場所：大郷町役場3階会議室 他

1 検討内容

No	検討項目
(1)	令和元年度普及指導計画について
(2)	プロジェクト活動の取組状況について
	N01 省力化技術導入による大規模土地利用型経営体の生産性向上
	N02 中山間地域農業を支える地域営農体制の構築
	N03 G A Pを活用した現場力の向上
	N04 環境制御システムによる栽培管理技術の向上
	N05 6次産業部門の改善による経営力の向上

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	0(2)	生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	1
市町村	3	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	

※() 計画委員数

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント, 評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
(1) 令和元年度普及指導計画について	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 技術普及, 経営強化, 組織づくり等がバランスよく組み立てられている。地域営農組織, 農事組合法人, 株式会社等, 地域農業のさまざまな担い手を普及対象の経営体として選定している点も高く評価できる 現場に出て現場の声をきめ細かく収集されて生かされていると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 頂いた評価を今後の普及活動に活かさせていただきます。
(2) プロジェクト活動の取組状況について N01 省力化技術導入による大規模土地利用型経営体の生産性向上	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 技術普及のみならず, 経営承継計画の作成を提案し, 経営継承を円滑に行おうと計画している点は高く評価できる。 大規模土地利用型農業であるがゆえに有形, 無形の多くの資産を保有しており, 継承すべきものが大きくなった結果, 経営継承が円滑に進まないことがある。有形, 無形の継承すべき事柄を経営者と従業員で共有することが重要である。 水稲直播反収実績も年々増加し技術の向上がみられた。 水稲直播について3年目の反省も含めて密苗という考えがあっても良いのではないか。 土地利用型の作物のICT化, スマート農業についても法人に理解頂きながらより効果の高い手法の導入について推進してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 頂いた評価を参考に, 今後も経営継承が円滑に進むよう, 効果的・効率的に活動していきます。 水稲直播については, 課題解決に取り組みながら目標収量が確保できるよう支援します。 対象法人の意向を尊重し, 今後もスマート農業の導入について支援していきます。
N02 中山間地域農業を支える地域営農体制の構築	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 収益性の高い土地利用型園芸作物を中心に中山間地で地域営農組織を構築しようとするチャレンジな課題である。中山間地ならではの課題を明確にできると, 今後の営農組織の構築に役立てられる知見を得ることができるとは思わないか。 日本農業の4割を占める中山間地でのプロジェクトなので普及の展開範囲の広い汎用性を有したプロジェクトになる。 法人設立に併せて後継者確保に向けた取り組みの支援も必要かと思う。 基盤整備と合わせての取り組み, 地域, 各団体を結びつける役割としてのセンターに期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> 頂いた評価を参考に中山間地域農業活性化のモデルになるよう今後も関係機関と連携し, 活動を展開していきます。 将来の後継者確保も視野にいれ, 法人設立に向けた支援をしていきます。

<p>N03 GAPを活用した現場力の向上</p>	<p>3.4</p>	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトを通じて、GAPの経営改善、労務管理、作業衛生管理等での活用事例が蓄積され、それらが「GAPの効果的な使い方」として普及することを期待する。 ワークショップで問題点や今やらなければならない事など上からの指示ではなく自分達が進んで作業が出来るようになることを期待する。 GAP取得にあたり、リーダー育成のための研修等が実施され、従業員において意識付けがされている。GAP維持のために定期的な情報交換が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員がGAPの理念を理解し、作業班ごとに改善に向けた活動を展開できるよう支援した手法を他経営体の参考にするためマニュアル化したいと思います。 作業班ごとに作業工程の見える化や共有化が習慣化されるよう支援していきます。
<p>N04 環境制御システムによる栽培管理技術の向上</p>	<p>3.7</p>	<ul style="list-style-type: none"> スマート農業技術の普及に伴い、多くの環境データ、生育データ等が蓄積されるようになってきた。そのような意味でも時機にあったプロジェクトである。 栽培管理技術を含め、膨大なデータをいかに可視化し、意思決定に用いるのが重要。生産過程のみならず、販売関連情報と環境、生育データがリンクできるとさらに効果的な課題になる。 各種調査分析データの取得などについて従業員が出来るようになったことについては研修、情報交換の成果である。 企業による最新システムによる「農業」について従業員が農業経験が無いという例は増えてくるものと思われる。これから求められる必要な支援である。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営者のみならず従業員それぞれが、多くのデータを基に、大規模園芸施設の栽培管理を総合的に判断できるよう今後も支援していきます。
<p>N05 6次産業部門の改善による経営力の向上</p>	<p>3.7</p>	<ul style="list-style-type: none"> 6次産業化の経営改善のために農業改良普及センターは何ができるのか、どのような支援が必要なのか、対象経営体と議論と実践を重ねる中で、経営改善に必要な何か普遍的なものが見つかれば、今後の農業改良普及センターの活動に資することができる。 原価と利益率の把握により適正な価格設定ができたことで収益の改善が図れればと思う。 経営の発展過程において、整理、改善の支援は必要と感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 6次産業化の経営改善に向け、利益の確保を重要視できるよう支援していきます。 経営の発展に伴い、多様な販売形態への対応が求められます。商品開発時点で販売形態を意識した価格設定ができるよう支援していきます。
<p>その他 御意見、御要望やお気づきの点がありましたら記載して下さい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 検討委員に農業士の方が増えたのは良かった。農業従事者のニーズを反映させることがプロジェクトの成否にとって重要である。 これまでのプロジェクトの内容、現在のプロジェクトの内容について積極的に農家、法人に周知してしてほしい。 取り組み内容を何をどの様に評価をしたらよいか理解ができず、今後もこの検討会の中で評価するという点では、大変重く感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 頂いた評価を今後の普及活動の参考にさせて頂くとともに、普及活動検討会の際に委員の皆様へ、適切に評価頂けるよう丁寧な説明を心がけたいと思います。